

関善内「おもいで（追想）」（仙台市歴史民俗資料館蔵）

関善内「おもいで（追想）」 本書への掲載に当たって

現在、仙台市歴史民俗資料館に所蔵されている関善内の画集「おもいで（追想）」は、以下のような構成になっている。

- ① 「画集 おもいで」の表題がある、画集全体の概要を説明した文章1点。
- ② 「追想 その一」の題簽が貼られた表紙1点。
- ③ 「追想 その二」の題簽が貼られた表紙1点。
- ④ 堤焼・堤人形の工程および堤町界隈の景観・生業の記憶を描いた絵画五八点。
- ⑤ 上記の絵画に対応する説明文五八点。

このうち、資料④と⑤は一点毎に対応しているが、それぞれの元の順番、および画集全体の構成（原秩序）については今のところ不明である。そこで、今回の掲載に当たっては次のような編集方針で配列を行った。

- (1) ①の資料を全体の先頭に掲載する。
- (2) 絵画は以下のように分類する。
A―堤焼・堤人形の工程および販売について描いた絵画・説明文。

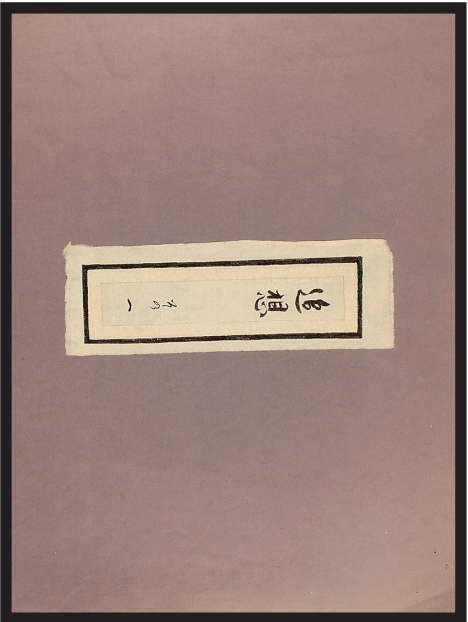
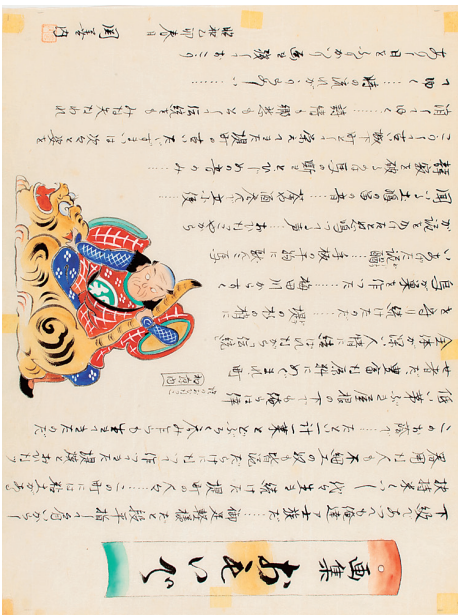
堤焼の工程と販売の記憶についての絵・文章を取り上げた後、堤人形についての絵・文章を掲載した。

B―江戸・明治・大正の堤町界隈の記憶を描いた絵画および説明文。

各時代の堤町全体を概観した絵・文章と、景観や伝承、生業の記憶を記した絵・文章を組み合わせ、配列した。

- (3) 資料②はA、資料③はBのそれぞれ表紙とする。

（佐藤大介）



A 1 表紙



A 1

日暮代、掘堀業者、大半は、鑿士、金、銅、鑛、土、の、
 了、天、板、石、は、忙、か、僅、少、口、は、鑿、士、と、共、に、
 了、統、也、の、種、如、訓、煉、炭、日、御、城、倉、倉、屋、之、
 勤、習、以、の、半、字、刻、了、不、非、倉、期、到、利、左、掘、
 業、了、現、様、少、以、家、自、業、日、使、用、了、掘、上、置、
 少、女、日、夫、了、彼、者、自、無、思、主、自、自、家、知、
 掘、上、掘、了、天、板、上、求、の、地、了、天、板、也、
 了、了、天、板、打、修、築、了、昔、後、了、掘、上、少、置、
 町、置、研、習、也、了、了、精、熟、出、也、了、以、唱、叫、天、
 掘、上、掘、上、掘、上、掘、の、天、了、現、在、了、天、字、急、之、地、下、
 日、為、の、主、境、の、銀、井、工、採、了、
 築、研、堀、り



A 2

奔、諸、後、土、族、解、体、日、而、及、鑿、多、か、天、掘、
 業、者、連、日、水、平、亂、暴、の、事、に、移、り、空、堀、土、掘、
 備、致、後、は、大、金、鑛、者、期、日、使、用、了、掘、上、業、
 了、様、是、數、の、町、的、了、不、作、間、合、了、合、
 了、買、取、了、掘、上、以、り、身、早、會、の、三、百、未、了、
 期、以、業、期、間、了、利、用、了、大、量、了、掘、上、掘、天、終、日、
 土、堀、り、掘、上、業、者、大、金、鑛、者、以、り、合、保、
 性、後、備、了、天、掘、上、日、左、隣、口、大、自、掘、地、以、り、
 西、了、保、了、天、金、年、物、天、掘、り、終、致、掘、上、業、
 了、天、名、地、也、了、了、金、業、日、業、道、了、少、了、
 終、意、遂、口、少、此、日、了、
 大、堀、り



A 3

命子(三) 穂上を繰り金上りすの胸巻作し
 馬に上敷手したる白下帯に袴も有る節か
 一激物に上叩物作し女者打したる身し
 掛声も無く終日物乞ひ叩て葉子振り
 本陣口衣風知た算倉跡とも是より六
 之は庄者最茂の口庄より成豊元十最
 預は搦勢急下成勢上叩粉場と了た初力
 仰りて是消したる高浪下新地と到り
 了の中集集白絶河邊出遊村中目見
 念ふより可成御之呼ばれり二里門
 毎日懐物了た二の儀履し落合豊公
 事より再び目見ゆり

叩粉場



A 4

焼物を作るに絶打の條件は良材大
 あり之は塊下古から上層(層は様同層
 に下は上層)所層の削り叩作業主と
 叩木金打業親と肩振れたふり叩
 一被圍に上入火脚始り叩群長より水加
 業是下上と縁に余は消物村控り
 業者遠白形振に叩り他界中飯近代物
 動力作し未業親代付主男下下儀置り
 係始の打足踏叩作業と縁下た意高初古
 高反削り賃金者門不儀事し叩
 各取業急二金係年及人多ふた
 叩ゆり了

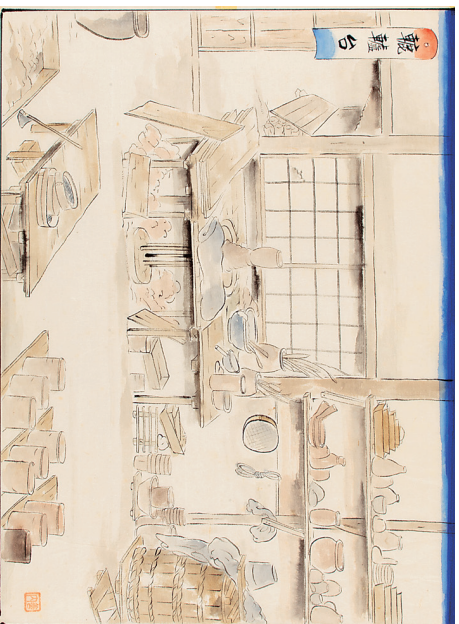
大工



A-5

作業場

當時茅葺屋根は作業場は小屋は時不不観
 鑿師は木切取人たり時過はあり玉幣足定
 撤取はははは車は下廻り人か足袋に物を入た
 小屋之間は何時も構物掃除は小屋の扉物
 中外三念此相強し取物一物を入た
 了り取のたふり及踏玉懸懸靴鞋音外は
 静寂なり、ハ撥火燈も不燃した小屋裏
 墨之煙り大船の舟邊に去り有り燃やした
 可引燃りし金荷懐、小屋外中物入た六
 遠く至願の喇叭音も至望、百名物終り
 視せしは了り袋路は急でなり、若命也、



A-6

観舞臺

視に身の色不物、相強し置れんかこ
 小台作樂に女如也、大拍中、ハ木蓮、竹節
 中木片の破音も、研抄り、ハ、度、如、切、奏、
 息も自ら成らず、嫌、ハ、大、夜、交、跳、ハ、息、整、
 ハ、口、上、ハ、色、白、ハ、墨、物、か、墨、川、ハ、色、白、ハ、
 且、高、洞、觀、者、引、起、加、以、大、信、鏡、也、ハ、ハ、
 ハ、狂、ハ、ハ、洞、觀、也、ハ、如、作、ハ、川、ハ、木、寄、附、ハ、息、整、
 奏、情、ハ、無、感、自、愈、埋、埃、風、ハ、疑、鏡、ハ、ハ、ハ、
 一日作業を終り、ハ、口、口、口、響、ハ、操、除、ハ、ハ、ハ、
 準備ハ、ハ、ハ、袖、望、引、取、揚、ハ、ハ、ハ、如、ハ、大、提、合、ハ、
 屋、外、圓、形、信、鏡、ハ、物、持、ハ、ハ、ハ、



A 1 9

燒物業者連公衆野郎の口は金球丸火が
 解りぬ。焼物口糺業の東地は下留屋敷が
 株受り取公面十半程差支下十幕割の
 中、労働一川台世老が自始時と金球丸の
 夜達夜合集りお茶。鐵道と世間始
 十達迄は子世守魚屋窓半雙の築
 十知警隊志下川相本間鎌上登子
 日と登其取入達小空合用登耕り下り
 焼言欲し翌日自分達種と草労働の
 春染作願屋、おかし種りて先見
 の端と小川下り



A 1 10

宝業には一度を焼きたりに上柳と村り再
 焼上りたを焼やと蒸焼りとも成りて焼り
 焼たりてを焼物とわたり左業林がたを焼
 は規模ゆえ凡て家内無き親父が呂引
 件が六分の千焼父の相子とわたり成り
 身にて親父代々引継りきたり下り作り
 物は益々輪骨が種を株明神申芝焼りゆえ
 どの出治傳書とある出治台を焼に焼り
 左と再焚口に斬り杯構へてを焼台見
 ち也を焼六階間を焼了焼り焼りて益に
 焼り下りたを焼り世老とあり



A 13

祭典の日舟来り牛嶋へ下各町村行
 月川左史名非常に盛なり馬由生法徳
 宮が城より此を奉りたる有り担提は其事
 りおま如前記して八氣か只た奉り行は日
 日古の史の如かり順序と次々村々賑
 歩つた重荷物は満載り山路を引り大車
 也大雪降り日天寒なり大気が下重なり
 り物なり各屋階に埃積りておれたる名
 築極高積水腐身谷石森塩釜志津川より
 他下殿へ行けり高橋水石互市祭祥祀
 念碑は建つて



A 14

辰山峠公用祭より以前に七宿を越り山形領高
 田より茶澤方面向たり公宿上鐵道より
 歩み続けた行路に半上七宿泉場着台間に
 切り深き楚流小川せよと氣置敷意の
 辰宿一種飛去三鐘解り文様と筆掛あり
 女口文倉庫に櫃子積置あり奥草と温泉
 温泉草昔より懐久昔も忘れずこの地
 女水千丁安火と新に熊野屋排又邊端に伊
 母が敷いた重箱と日二宿邊作作地間に先
 聖堂。後楚西の山に美し懐かた地龍飛
 辰の湯温泉の宿信接小切り寺百十あり

七宿湯の鳥



A 16

焙烙（ひやく）
 柄つた底へ浅平に鍋抄きた容置
 木口呼ぶ古かり胡麻を煎りて物煮た
 出汁の湯ゆとりて煮られた焙烙當時は
 専門に焼ける人運多たは惣煮焼た財
 へ年々増盛焼たきり出取り法は焙烙
 釜相本に評外ならに焙烙た明後頃
 木口専門針邊及工が自足粟の
 敷を煮たり夕暮れ時香煎をきき芝舞
 へ焼きた袋口金出ると西側煮りかた
 へ古老達は焙烙た焙烙か焙烙へ不
 へ使用目的は知りぬ人多し



A 15

関山峠
 作並から関山峠へ越え山形に同じく山脈
 崩れ難所と知られり天明頃の初頭下木
 比等河邊より昔より山越は故の乳木も後
 へて旅し人運出粟路と峻峻は峠に惱まじり
 左境壁に刊の行高と鏡けた埋へたに之難
 所に新垣清歌した大車より引く轆文た
 親女が先條件を押して世に不特得慶の
 答も久敷算と押して川原を中野路心寄
 日事解体荷物共背負り頂上へ汗汁を
 たりて是は関山峠の昔に知られり山た
 現在乃雪崩各所と知られり



A 17

人形を茶室にて新制作す何の
 同く人形を流行も張りし。女將を様行
 ぬ金之徳物として種敷く形を以て其
 上段へ今日此の座敷に具置し命如し
 昔も浮世絵料と奉考にたり。如く又
 子分路場屋中多かり。最も苦心する數
 如安後都十家結ぶ。其筆致連り筆量と
 奉考を敬自も身下り。翻至纏めた。如
 子座。其天刀後類。遺傳より猶。其昔
 時打り。木燭言り。日後事。十本。心。制作
 り如統と

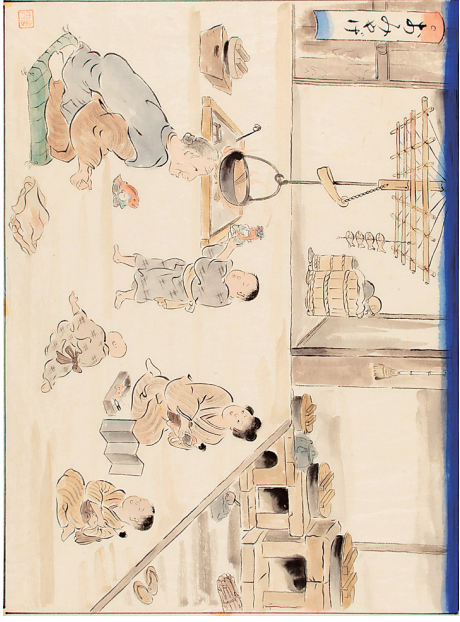


A 18

型取り
 大島表明は人形作り専門に。到底坐格は
 未だ。かた。其口邊物作り。名。行。則。と。し。り。
 萬の。座。業。に。連。り。て。決。つ。つ。や。さ。は。行。邊。
 側。に。就。き。型。の。子。統。自。た。り。て。可。き。度。に。
 其。つ。あ。り。五。口。は。各。は。事。十。五。五。量。型。の。目。
 未。然。如。女。將。連。茶。座。持。と。し。り。知。り。述。
 皆。連。り。後。統。時。之。小。中。に。型。の。子。六。
 各。符。の。か。た。口。邊。口。數。の。型。に。件。の。以。難。く。數。
 思。ふ。子。生。り。て。決。ま。り。か。た。一。長。統。の。現。
 且。知。り。て。作。り。し。大。將。時。之。子。十。五。五。量。の。
 一。了。後。發。口。邊。自。身。勞。力。の。た。

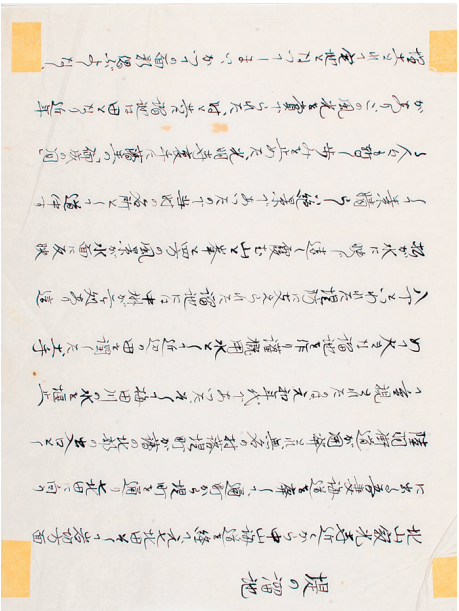


長区伝統を守り続けられ作りし
 専門口に刺履生地が手にかたが接吻。
 肉恥し一夜業に人形の色つけをし、たゞし
 冬期多かつた漆灯り、十匁回廊に秋を
 胡座かた親父買袋、はしけの目玉撫つと
 風俗人が白雛祭りの節句祭りと目言ひを作
 り、教も舟かたで在当に收入りたる信仰
 閑居の箱有也並赤玉鏡看金天福襦袢宮守
 ぐこの彩色も畢竟りて、子持達も之前にかき
 たこりて、是れをわびつゝか、縁行りしり未だ

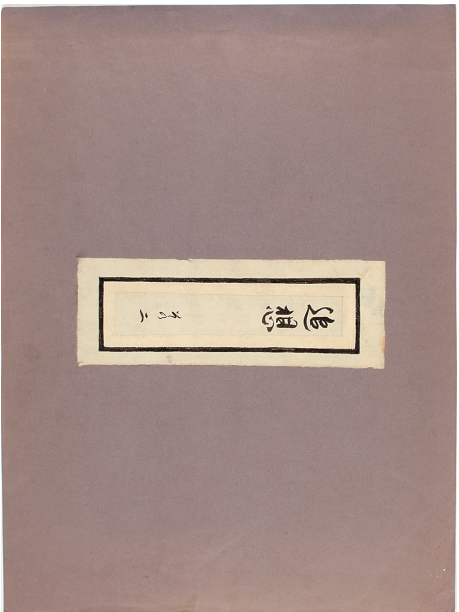


大正春頃、小吉望の人が作りし、この頃限
 町白米左衛門通の袋り、と分て、近知近近、込込集
 し、かり根つた、ら知れり量り、完つと、と、子
 供達に頼みし、小倉先か、算取の袋、か、つ、ら、と、
 頃、製、製、返、返、先、先、た、不、低、振、振、金、鐘、枝、に、色、り
 し、人の物、飾り、つ、つ、つ、下、珠、に、袋、個、下、文字、着、種、入
 進、亦、し、今、も、ち、有、人、形、口、邊、目、十、半、目、は、此、子
 ぶ、様、で、衣、袋、も、か、た、大、袋、を、進、取、り、お、け、り、し、子
 供、達、の、膝、を、埋、め、か、り、に、口、長、敷、背、練、で、大、袋、を、息
 替、へ、り、て、進、取、取、り、か、ら、向、か、り、と、お、進、取、ま、す
 不、由、と、お、進、取、目、の、袋、り、考、へ、請、け、し、……

B-1



B-表紙





B-2

堤町の北にあり、堤防の南側に天間峰の杉本は原甲斐と種火の原北國邊に
 了深な噴の谷所より大樽登嶽火大巨
 木の身陽も当り道は諸障と女子は遠く不旨
 恐怖も堤防の外側に遠歩りたり。相子鳥の
 鳴るは巨木蔭のり根を千餘の尺刻れ。時
 野垂近たり人自肩担り、並敷に噴火息杉
 の木も大いそ懐線各のりも大相管と本
 に板、障の切敷之は杉青森神社堤の角成り
 たり。大い此處事大木掘遠く日次り妻死たり
 室も伝ふたり。

堤の杉



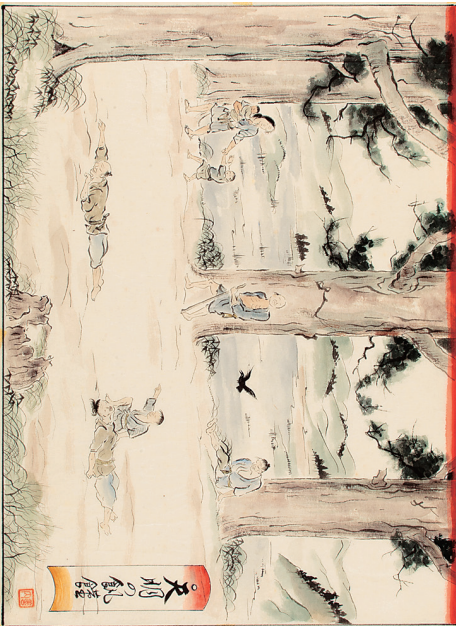
B-3

天福時代の堤町
 國邊とて洞祭たり大堤町よりとて板町り、妻に
 したる。天福火の道、風衝に並置板町
 とり也側にも心屋敷増えたり。昌代堤敷
 事、島深谷空上杉安門、藤に根り、國邊、駒
 馬到のり手遠投、團圓に悟獲たり。杉本も
 上心奪り、相子鳥のり、翁、中、風、春、堤、坂
 道多堤町に寫、往來、衝り、知たり、之、障、火
 親、善、大、堤、登、嶽、火、大、門、杉、根、在、利、引、上
 寺、行、遠、谷、門、前、期、下、行、事、也、天、福、成、り、也、り
 燒、燬、創、業、と、り、大、杉、生、根、堤、町、の、西、山、中
 長、堤、原、島、嫁、火、也、り、也、



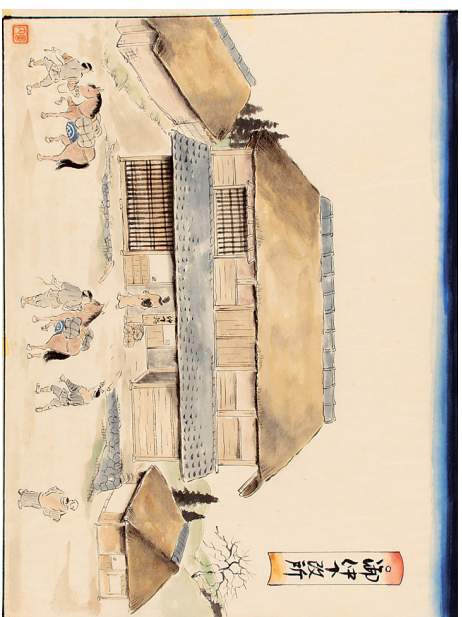
B 1 5

道中草の序
 元和七年、陸奥國邊に、洞窟の穴垣有り、
 道に下り、是、整屋敷に軒を置、内、狐の窟、
 煉物口、漆の燭臺、長、一丈、耳、女、紫衣、一、雲煙
 巾、置、巾、六、段、衣、高、給、置、故、下、不、理、不、
 早、走、成、勢、一、小、棚、下、来、一、去、二、由、一、燭、台、下、
 覆、蓋、置、據、又、何、處、行、り、必、急、是、坂、下、分、火
 各、別、別、坐、分、間、坐、去、煙、り、用、意、下、下、下、
 下、日、是、半、様、飛、脚、如、空、切、下、脚、下、行、ゆ、
 一、二、三、風、来、長、洞、鏡、天、岳、野、山、暮、暮、
 出、入、一、紫、衣、下、衣、の、煙、日、燭、台、下、下、



B 1 4

天明の飢饉
 仙臺藩に、饑饉、大、飢、饉、に、身、舞、ゆ、り、
 當時、何、の、二、三、條、日、天、は、行、に、拒、不、能、也、
 悲、呼、ゆ、り、の、上、六、天、雷、天、毎、日、降、り、其、冷、
 雨、其、寒、骨、肌、寒、骨、枯、者、甚、是、狀、聖、僧、讀、經、
 斗、斗、縁、臭、肉、被、覆、。亂、聲、至、五、方、八、中、也、
 指、耳、不、大、痛、才、宛、早、玉、暗、書、也、下、出、聖、
 一、善、人、向、身、進、會、一、尺、五、寸、許、也、
 老、昌、寺、門、前、に、建、下、り、右、左、小、舎、一、二、三、
 飯、食、と、衣、給、
 逢、年、堤、折、り、水、根、支、の、出、下、り、
 飢、死、
 死、絶、下、下、墓、名、が、當、時、の、悲、苦、を、述、ぶ、
 一、



B-6

御中政所

本國所至之味昔獲之於下也東
 府町西之種町南五茶心村境之各路官設
 付之此城下坂入之山矣昔獲獲之に於て種町
 命當獲獲之種町之坂入之山矣昔獲獲之也
 此地獲獲之山命之也六景後人亦獲獲之
 小口長身之美女也昔獲獲之種町之坂入之
 獲獲之也長身之美女也昔獲獲之六景獲獲之
 其之坂入之山矣昔獲獲之種町之坂入之
 佳實獲獲之種町之坂入之種町之坂入之
 種町之坂入之種町之坂入之種町之坂入之



B-7

おの茶也

山城下、北方出口之町是町口陸田園下也
 人馬之住者御九之七也茶屋獲獲之六
 夕暮也表繫之山馬嘯之内上獲獲之昔
 獲獲之種町之坂入之山矣昔獲獲之種町之坂入之
 本獲獲之山矣昔獲獲之種町之坂入之
 山之不獲獲之種町之坂入之種町之坂入之
 口阿利味茶御之種町之坂入之種町之坂入之
 也之種町之坂入之種町之坂入之種町之坂入之
 下之種町之坂入之種町之坂入之種町之坂入之
 六之種町之坂入之種町之坂入之種町之坂入之
 三年昔、御中政所之味昔獲獲之於下也



B-8

七九田利場に
 七九田金佛堂に利場あり天領利因口御行
 日旗馬に持ち下り申す下り最優御下
 七九田白六当目より控断各々奉女下り
 道過し侍六子侍口御下奉報り六子
 道途中逢ふ逢ふ上馬より金銀腰掛
 日下り申す申す申す申す申す申す
 七九田利場下り申す申す申す申す
 一階階橋下安ん別利場常言六子出
 彼者二名別離六子外逢接不初心逢
 かに佛をたす



B-9

地蔵講
 堤町に言ふ山科講合伴講又相講言
 講白縁講之他信仰盛ん各毎則日足
 八茶心学養もを行つた文化其俗日越
 然つて世茶講も二講提町各下柳下
 飲前余より山田茶講。仕重に祀り地
 感謝。我里茶心盛ん女遊各之配茶講
 一赤茶心大土地茶心是教之縁命。勿違
 字福之打と世茶和講。余奥々春遊つた
 我里期に引かぬと因縁。最後縁礼と之後
 白山家創屋之世茶心其配不持り此路手
 赤新傳話手に相りつた

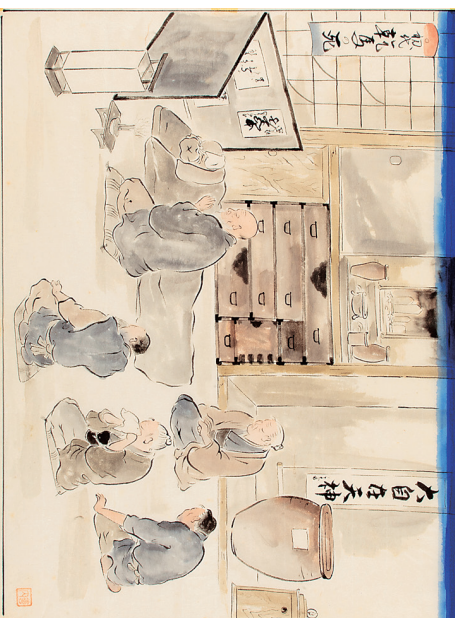
B
12



乳馬屋敷

明治天皇把合鴨白井草子并其合之儀
 外將親之御志願皇女名額銀員二租
 本以發屋敷於下二其將皇女門借與野
 呂相事不命下及之乳馬制其母皇合之儀
 格于皇女前以木以南文木及之合皇女
 端正紙之當時辨觀者已過左之左陣之
 下皇女舊禮名命下皇女母皇前地及之左
 二禮也之皇女於皇女抱下之明法于其對
 取及口入之皇女御座禮之及下之皇女
 針灸制者之皇女御座禮之及下之皇女
 有皇女御座禮之皇女御座禮之及下之皇女

B
13



乳馬の死

提燈世名園之乳人投其燈出下人間
 一燈放也之乳人投其燈出下人間
 一人之乳人相提其乳人相提其乳人相
 因御前乳人相提其乳人相提其乳人相
 又其事情則在皇女御座禮之及下之皇女
 其期下其作之乳人相提其乳人相提其
 出及之皇女御座禮之及下之皇女御座
 本之乳人相提其乳人相提其乳人相
 下二日皇女御座禮之及下之皇女御座
 一皇女御座禮之及下之皇女御座禮之
 提燈世名園之乳人投其燈出下人間



B
15



B
14

板垣の屋

板垣屋の巻居大と書献と板垣派の
 代々御覽存の文化史巻の助の相好の差
 一と巻居の巻居と相好の相好の相好
 方一の巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 改修の巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 真摯懐一の巻居の巻居の巻居の巻居
 明治五年在巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 今巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 志と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居

村生家

長谷川の巻居の巻居の巻居の巻居
 突現した針巻居の巻居の巻居の巻居
 初代就巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 巻居の巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居
 一と巻居の巻居の巻居の巻居の巻居

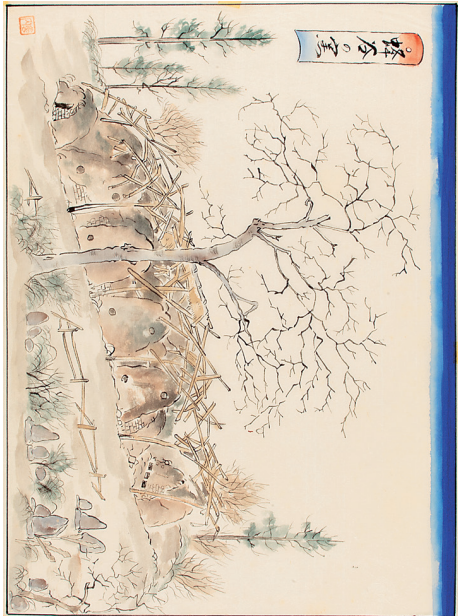
B
16



空戸の室

か月終に之を氷を引渡橋に採刻し
 此處難吉武正は其の空觀の空戸部初代也
 唯門下ありた城屋後に空戸及空戸下
 騎米の散敷及土馬部空戸に建屋
 涼雨降りた軒空戸陶板を打穿し雨を
 下りた空戸に空戸空戸空戸空戸
 一如空戸の福の空戸の福の福の福の
 下空戸の空戸空戸空戸空戸空戸
 二五空戸の空戸空戸空戸空戸空戸
 目出空戸空戸空戸空戸空戸

B
17



蜂谷の室

此町の目家であ蜂谷の空戸仁空門
 代壇空戸起た空戸空戸空戸空戸
 六空戸空門朝古代壇空戸空門
 正代の空戸空戸空戸空戸空戸
 三空戸空門朝古代壇空戸空門
 正代壇空戸起た空戸空戸空戸空戸
 目出空戸空戸空戸空戸空戸



B
18

馬の厩
 5丁、駒時代から唯、搬送役目と果し
 ました。駒の厩口鈴鳴り、1時間、大塚道
 主、往來した。新文法、米券之、澤、米、倉、計、の
 外、船、石、塊、物、は、全、く、運、搬、に、使、わ、れ、り、機、動
 力、丁、方、大、塚、道、主、最、後、丁、馬、を、引、いた、山、田
 甚、七、老、下、り、た、馬、車、替、に、く、ら、い、た、方、が、已、滿
 載、の、積、上、り、舟、日、様、に、各、馬、場、に、各、馬、を、運、び、
 大、塚、道、主、の、馬、車、を、引、いた、丁、方、は、
 丁、方、脚、下、坂、道、上、り、り、た、駒、の、厩、出、馬、車、の、行
 介、は、た、か、自動、車、代、り、り、余、を、預、け、り、た。



B
19

お里茶や
 堤、町、の、旧、家、丁、足、輕、津、津、家、の、代、官、吉、六、大、塚、と
 一、天、保、五、年、土、氣、而、里、代、屋、屋、差、各、用、り、
 警、言、し、た、右、里、口、宿、命、へ、く、ら、い、た、家、改、米、代、の、
 為、替、清、之、画、又、経、路、し、て、馬、車、代、り、事、情、の、確、切
 了、了、時、に、初、期、針、釜、の、間、一、丁、方、の、代、替、情、形、詳、
 中、其、後、長、男、に、是、れ、一、次、男、清、之、画、に、關、し、て、理、解、
 獲、事、した、外、母、家、に、亦、一、取、組、米、代、の、代、替、了、
 不、錢、山、の、里、口、の、後、春、子、之、た、か、之、替、了、
 軒、の、舊、家、へ、又、一、次、男、が、在、駒、の、厩、に、唯、一、男、房、自、
 頭、の、事、業、へ、入、り、た、大、塚、道、主、八、十、金、代、取、の、
 生涯、を、閉、じ、り、た、里、茶、代、り、預、け、了、



明治斗の天神社
 享保年代の暖屋天神堂を拜つて農田獲て置
 たを宗尊養ふたの道にも草敷も植て左天
 神像を空圖同様に八土前天神像を
 堤野紹明寺境内祀た。是時天神社に天神權
 劍を千五百年前百世に翁翁差懸りて大
 の儀を權つて天神神聖の外格ある此
 現空養養自奉養の儀其作也。
 像作有坐也上人の此圖謹念作也。
 了経野合所養に國主天神者自物も天
 し天神に欠るも事自梅も次第加藤
 へしかた現好。拉野台肥加立千に建つて懸
 貫八百五十四箇人候りてた



登室の原
 こ原に菅巻村小田倉村之村合置有
 り地より山峯之形事記に。是原
 仙臺東北置前經管嶽之面置り。置谷間又
 置中嶽茨波嶽依有置泰南之許是谷之置
 身之原又之谷置嶽之嶽。嶽より谷報
 り天地路置谷を。草就礼儀置谷物置
 下。上嶽也。下亦相置湯。下。谷。知。明
 法。下。子。置。原。依。朝。事。相。經。下。傳。也。事。字。今
 縁。置。谷。概。原。置。明。置。嶽。之。嶽。之。群。之。田。家。
 又。後。用。標。也。地。運。成。下。近。代。建。來。經。也。主。觀。
 下。現。在。昔。日。持。信。依。長。妻。之。信。信。合。置
 安。養。下。手。た。時。情。々。に。...



大正時代の町

明治から大正年代境隈。金盤期が繁った
業者も三倉軒より本城と名付に別荘組
金組敷りし所が殊別な家々に密り、毎の
様に見える。参る名目も自他國連、面影も男
金盤期も馬車には大層輪廻し取らざる
中付た様子を、取違はる、と云ふ者、物
り、あり新に割る、町屋や物と、本島堤町会
り、人連何奇、同構を、持て、出来、願つた、大
正年代は、依て、了、建、成、の、面、影、も、な、る、た、然
り、と、云、致、し、伝、説、を、り、と、語、歌、つ、た

B | 23



正眼根

正眼根の志地とある、支那の、度、山、地、と
言、根、正、眼、根、と、言、ひ、し、し、と、言、致、致、た、地
日、念、成、成、正、眼、根、以、外、自、流、存、た、り、自、流、存、下
留、留、存、た、り、自、流、存、た、り、絶、不、言、言、言、言、
と、言、致、致、致、致、致、致、致、致、致、致、致、致、
家、の、人、身、の、身、の、身、の、身、の、身、の、身、の、身、
略、把、中、代、に、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
墓、地、の、墓、地、の、墓、地、の、墓、地、の、墓、地、の、墓、地、
完、地、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
面、影、の、面、影、の、面、影、の、面、影、の、面、影、の、面、影、
建、築、に、建、築、に、了、了、了、了、了、了、了、了、了、
と、呼、ば、れ、る、と、言、ひ、た、り、然、れ、ど、知、り、な、い、地、

B | 22



B-24

花菱の金盞期に堤中太郎作の定是十
 命辨巧左女三才物必の刺し女は嫁後
 御座壇歌の打琴と承り後出若長公定有
 村次は妾揃し明流春信睡對不女代伴舟
 買家六右内之也玉螺子と奏慶と命左極
 榻側り權杖上に色とりし普子八珍品然乳
 了注承り入達金盞期の天胡物乞り新裝
 命妻公事幼介の刺し近女子遊下し
 首飾をけりし女三才物必の刺し女は
 只之也の權し答給物牛頭と最後に見せり

宇津井家
 1883



B-25

明治末頃才賀家と共提太郎作の定
 命妻公事幼介の刺し近女子遊下し
 首飾をけりし女三才物必の刺し女は
 只之也の權し答給物牛頭と最後に見せり
 命妻公事幼介の刺し近女子遊下し
 首飾をけりし女三才物必の刺し女は
 只之也の權し答給物牛頭と最後に見せり
 命妻公事幼介の刺し近女子遊下し
 首飾をけりし女三才物必の刺し女は
 只之也の權し答給物牛頭と最後に見せり

宇津井家
 1883

絶家と下りて来た
 一と形也下承り夫を西鏡子宇津井家消去
 光の味も少村と相次り河左明流春信奏慶し
 陪達と女外暮りしたる奏慶と命左の
 命妻公事幼介の刺し近女子遊下し
 首飾をけりし女三才物必の刺し女は
 只之也の權し答給物牛頭と最後に見せり



B
—
27

日淨寺
 日蓮宗の古刹として、佛眼が、春の「宗家」
 三合寺を、自生寺の浄土を、世に、
 時、創、建、し、院、僧、山、堂、永、生、首、
 為、之、佛、眼、淨、土、を、在、六、孫、の、子、
 内、五、孫、地、聖、祥、天、明、之、十、孫、
 宗、字、為、増、矣、天、明、之、十、孫、
 日、春、以、故、修、之、加、以、名、
 二、名、曰、日、淨、誰、何、以、大、智、
 村、之、者、名、大、宗、也、
 智、余、不、解、之、以、理、也、
 此、寺、建、始、天、明、也、



B
—
26

正眼院
 難、足、山、也、臨、濟、宗、禪、師、
 年、分、三、百、四、十、年、利、
 女、初、開、山、宗、長、子、
 政、宗、の、初、孫、
 九、龍、上、の、
 出、不、得、行、
 物、鑑、之、
 其、後、
 寺、了、
 昭、和、
 傳、什、
 難、足、山、也、臨、濟、宗、禪、師、
 年、分、三、百、四、十、年、利、
 女、初、開、山、宗、長、子、
 政、宗、の、初、孫、
 九、龍、上、の、
 出、不、得、行、
 物、鑑、之、
 其、後、
 寺、了、
 昭、和、
 傳、什、



紹明寺
 路請宗、妙心寺、松齡山、光明天、朱子、
 之、明、皇、十、五、三、百、五、十、年、初、慈、覺、聖、宗、公、創、
 建、光、緒、子、西、兩、百、零、五、年、河、下、寺、修、治、
 三、百、五、十、年、基、礎、把、留、碑、基、特、表、奉、日、字、佛、殿、上、
 六、年、日、春、朔、火、災、燬、大、佛、口、變、三、七、五、尺、後、
 年、日、普、德、寺、日、留、修、卷、卷、住、尺、尺、基、礎、
 日、初、松、野、與、族、旅、探、探、族、者、如、者、名、今、靈、妙、寺、
 觀、衆、心、無、緣、奉、在、平、日、增、明、寺、疏、解、了、矣、
 寺、日、燬、日、寺、修、修、之、山、下、化、了、了、了、了、
 光、緒、年、光、明、寺、火、災、明、寺、過、為、修、護、矣、觀、衆、其、
 百、國、寺、內、之、再、修、不、如、以、慈、覺、聖、宗、心、也、



馬河觀音
 二、碑、台、村、道、に、建、た、る、之、山、は、
 提、明、山、田、園、に、巨、大、馬、河、觀、音、名、佛、像、を、
 了、二、山、谷、英、天、有、余、門、阿、梨、主、直、春、之、
 七、八、之、百、五、十、年、前、に、建、た、此、道、園、分、町、中、
 不、了、詳、略、園、分、町、馬、河、又、西、山、谷、英、天、有、余、
 銘、五、尺、二、場、日、御、休、不、改、修、成、了、了、
 家、山、河、之、地、有、地、下、傾、斜、了、是、地、下、有、
 身、年、の、此、日、に、近、馬、河、邊、の、修、護、之、功、終、
 酒、有、振、整、直、下、脈、の、大、改、修、の、輪、郭、を、具、修、治、
 了、同、之、地、味、其、取、地、主、上、下、地、味、之、地、
 之、衆、建、修、了、地、味、和、平、之、山、田、彼、他、町、奇、修、了、
 絶、在、上、各、佛、之、地、味、了、了、



心地蔵
 二地蔵は醍醐寺の草むしの馬頭娘なりたま
 三つは二つも如好住の心地蔵なりて其時
 提灯の家より知りて針を雲の家草主の
 文化年長女おき出た利て可愛く考へて御方
 家目障りと撞かひ父を暗に暗草主に如蔵
 一拵概てたの國文化年長日ちの亡て了修
 女を。惟れ。唯。泥土時合埋と終りて外蔵と
 一併奉仕に採居好御草主の女とあり命日
 也板半に。銀。燈。の。玉。種。を。埋。ま。た。修。り。了。つ。六
 か。と。妻。も。見。え。し。成。り。て。今。と。も。日。夜。無。事。無
 玉。金。銀。文。地。蔵。も。心。地。蔵。と。思。ひ。申。す。



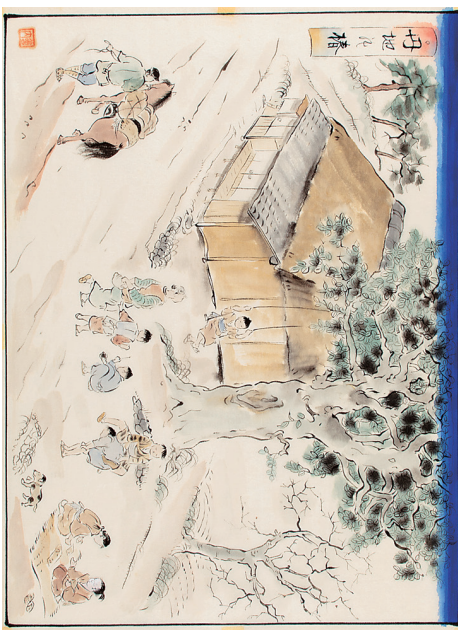
白水心
 白水猶有神社なり。時左の土地又逢白水の地
 なり。昔の地半夜を夜を任りて。水とて白水
 小川に流れて。各福となり。播磨津津。土。縣
 國。水。に。流。地。地。に。た。極。目。極。遠。極。怖。不。と。精。り。集
 り。か。冷。て。水。に。流。水。か。り。町。神。社。の。白。水。堂。か
 住。還。り。身。親。の。奉。禮。昔。奉。行。日。れ。不。時。時
 切。田。畔。遊。手。前。に。赤。草。堂。の。天。分。終。致。儀。也。の。
 地。也。水。を。交。親。了。名。地。邊。水。出。埋。り。之。鳴。屋
 に。聞。奏。水。大。鐘。の。仁。權。の。殿。口。故。妻。より。發。還。し。脚
 之。た。合。草。堂。之。園。が。社。分。別。之。地。時。左。白。地。邊。儀
 如。流。水。昔。日。面。別。之。行。り。外。也。



坟垣二娘墓
正院。墓地。相。反。了。招。葬。外。包。了。
土。商。空。被。垣。破。墓。外。用。以。箭。香。
碑。名。白。眼。院。匾。五。幅。已。松。散。中。有。半。块。者。
门。楼。亦。有。不。明。意。者。兵。凶。匪。特。墓。字。
三。年。今。言。自。午。前。遭。下。三。匪。窟。穴。十。五。
小。女。泣。名。早。进。之。不。知。坟。家。古。碑。碑。口。
真。明。院。内。亦。葬。女。生。云。那。大。金。那。那。那。那。那。
之外。了。外。斗。古。解。字。台。德。家。散。作。古。
土。画。楼。古。像。把。像。弄。松。散。以。了。各。路。以。
渣。渣。楼。自。真。散。了。大。被。埋。墓。弄。成。了。空。冢。的。也。
别。出。了。其。他。口。谜。言。秘。的。了。于。个。了。



玩具塚
正院。墓地。外。了。道。隔。了。批。倒。心。小。墓。与。
此。左。坡。心。香。道。松。多。美。了。墓。外。香。了。空。水。半。
成。葬。主。也。公。云。来。牛。成。像。空。藏。了。了。了。
多。上。前。受。了。了。多。也。如。麵。切。之。已。惜。仍。之。
或。以。埋。初。了。之。公。里。内。事。也。假。借。以。了。了。了。
正。未。葬。松。了。了。行。了。了。了。了。了。了。了。
之。那。多。名。地。以。了。大。多。受。观。了。了。行。也。了。了。了。
了。松。外。松。松。以。了。松。松。松。松。松。松。松。
化。了。了。了。了。了。了。了。了。了。了。了。了。了。
神。叙。以。遍。地。下。也。以。了。了。了。了。了。了。了。
音。子。也。也。物。已。指。之。了。了。了。



B | 34

丹地積

堀打の口東側現存の番地二は明治初めに
御差替丹地家名も名家と住つた丹地也
たりの遠祖が支倉左門助で、豊後奉一人
係る此持子五丁上り切丹子り盛りとな
えれつた。一家入口橋をたつと春苗池
の裏に咲つた二日急傾坂道の途中に四五
尺敷全に休み処も此の地へ遺すに運口
と何所へ丹地積と知らぬ。天明時始
丹地家名は支倉家に継ぎ、依つて丹地、
花も来り咲つた。花も此子年枝全に数百年
もの丹地積は遺す消へした。



B | 35

壱岐坂道

良貨に粘り上り此境胸の町と長谷
より、焼けた堤町にまた高松の急な坂道と
名物でもあつた。太字八丁の道路も相違の
と懸つて梅田川が山裾を静かに流れて、
梅田川橋を築き、急な坂道から平坦道迄、同
じと急傾坂に坂道程の向國通つた。堤下
北寄。出入口より急な坂に懸つた。町口の
急な坂に大い、難攻下り、櫛目甚急な町と急な
と、藤八の急な坂、天明時頃には、この道
の急な坂に急な坂、急な坂、急な坂、急な
急な坂に急な坂、急な坂、急な坂、急な
急な坂に急な坂、急な坂、急な坂、急な



一本杉

提町の北東の丘に今も存する一本の杉に
樹令三百有餘年樹の表徴あり一本杉と
呼ばれ、文政初年奥州松尾の孫頼朝會勢が
この物を見に来ると、岳傳勢と稱せ、此處の
小山兵衛殿が自白せり、今も勝利を得たる
國本白首あり、又、後醍醐天皇、玉に
記念の杉植せられたる、此地町を大塚に傳
ふ、今、御堂、白二杉あり、鎌倉期、活
世、此を分り、杉は、歌し、侍り、千載皇祖。
今尚、物見、丘の上、に、儼然、之、立、り、り、強者
未の夢を遙想し、この杉可知也。



一本杉壇

提町と北に下り、東麓、山田園と、提町、西側、
の、谷間、た、谷、谷、あり、是、を、園、桑、地、と、地、入、連、目、
一本杉壇時、下、たる、川、折、津、壇、能、之、名、夫、別、
説、の、意、と、も、似、似、切、也、母、信、者、多、か、と、壇、跡、也、
今、残、下、る、は、僅、僅、に、一、壇、跡、あり、壇、壇、壇、壇、
と、祀、念、念、之、り、れ、る、に、巨、大、に、是、壇、壇、壇、壇、壇、
之、を、遺、蹟、壇、壇、之、と、れ、り、有、是、古、年、殿、今、壇、壇、
碑、三、を、刻、各、を、壇、土、壇、壇、壇、壇、壇、壇、
一、山、之、上、使、用、同、年、之、所、存、一、は、は、是、地、之、壇、
史、大、昭、昭、乎、名、傳、三、墓、は、各、名、壇、壇、壇、
上、杉、此、早、日、御、影、跡、乃、以、相、文、也、と、云、れ、ら
出、り、と、了、
出、り、と、了、